

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 11 月 16 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3870105628
事業所名	グループホーム すみれの丘
(ユニット名)	うみ
記入者(管理者)	
氏名	政岡 美知子
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 30 日

<p>【事業所理念】</p> <p>私たちは、利用者の方々の「その人らしい生活」を大切に、穏やかで安心感にあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>入居前の利用者の基本情報を誰にでも容易に理解できるようセンター方式なども取り入れ、職員全員が把握できるようにした。また面会時に、職員の異動、入・退職がある場合は職員から挨拶をするよう徹底している。また文書でも報告している。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は、市西部の海岸線沿いの小高い丘に立地している。2階建ての事業所には各階にウッドデッキがあり、見晴らしの良い海などを眺めながら、日々ゆったりと利用者が過ごせるよう支援している。現在のコロナ禍においても、人混みなどを避けながら、積極的に事業所周辺の散歩やドライブなどを行い、利用者が少しでも気分転換ができるよう支援している。また、地域の花火大会の開催時には、家族に呼びかけて、利用者と一緒に絶景を楽しむことができている。さらに、事業所では、施設長や管理者を中心に、職員間でのチームワークの良さを自慢することができ、事業所理念にある「その人らしい生活」を大切にしながら、穏やかで安心感にあふれる生活をサポートしている。今後も、利用者ができていることを継続してもらいながら、さらなるステップアップが楽しめる事業所である。</p>
--	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える								
(1)ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>◎</p> <p>○</p> <p>◎</p>	<p>入居前や入居時に思いや暮らし方の希望を聞き把握している。急な希望でも対応している。</p> <p>日頃の会話から利用者の思いを探るように努めている。</p> <p>家族様には面会時「利用者の思い」について話し合っている。</p> <p>利用者からお聞きした事は介護記録に記入し職員全員が共有できるようにしている。</p> <p>利用者とのコミュニケーションを図り、言動や思いをくみとれるようにしている。</p>	◎	/	○	<p>入居前に、事業所では利用者や家族に、これまでの暮らしなどを記入してもらい、家族シートやアセスメント表に反映させている。また、入居時に情報を確認するとともに、日々の生活の中で、職員は利用者から思いなどを聞き、把握できるよう努めている。</p>
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>◎</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>入居時にセンター方式シートを使用し家族やケアマネージャーから情報収集し把握に努めている。</p> <p>精神状態や残存機能の把握等、職員間で共有できるよう話し合っている。</p> <p>日常の様子を記録にすることで把握するようにしている。</p> <p>不安による要因や状況を職員間で話し合うことで把握できるようにしている。</p> <p>介護記録に日々のリズムや言動を記録し把握している。</p>	/	/	◎	<p>入居前に、事業所では利用者や家族に、これまでの生活歴などを記入してもらいほか、入居時にもアセスメント表を活用して、情報を確認している。また、センター方式のアセスメント表の様式を一部活用して、詳しい情報の把握に努めている。さらに、日々の生活の中で利用者から聞いた、面会時等に家族から聞き取った新たな情報は、申し送りノートや介護記録に記載し、職員間で情報を共有している。</p>
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>利用者や家族に確認し、本人に必要な支援ができるよう検討している。</p> <p>利用者の言動を大切に、職員全員で必要な支援を検討するようにしている。</p> <p>日々の記録、利用者の言動から困りごとの把握に努めている。</p>	/	/	○	<p>入居時に、計画作成担当者等がアセスメント表を活用して、生活歴や趣味、職業歴、生活習慣などの項目を、丁寧に聞き取りをしている。また、アセスメント情報をもとにして、利用者や家族、関係者から意見を聞き、月1回のユニット会議を活用して、職員間で話し合いをしている。さらに、事業所では、新たに得た追加情報が申し送りノートや個別記録等に記載されているため、限られた時間の中においても、アセスメント表に色を変えて追記するなど、定期的に情報が更新されることを期待したい。</p>

愛媛県グループホームすみれの丘

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	利用者だけでなく家族からも情報を得て、対応している。				事前に、利用者から意見を聞くとともに、家族から面会時等を活用して、意見の聞き取りをしている。また、主治医などの関係者から指示やアドバイスを受けるとともに、職員間でアイデアを出し合いながら話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	利用者からの聞き取りや家族が来所された時にお聞きし、職員全員でアイデアを出し検討している。	◎		○		
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	入居以前の事を家族からお聞きし、プランに取り入れて実行できるようにしている。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ禍で地域の協力体制は出来なかったが、家族とは手紙やりもとの面会を行っている。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	毎日ケアプラン評価表を活用し職員全員が把握・理解し実践できるようにしている。			◎	事業所では、ケアプラン評価表に介護計画やサービスの実施内容が一覧で表記され、職員間で共有をすることができている。また、日々のケアプランに沿ったサービスの実施状況の有無を○×の印を付けて評価をするとともに、×の場合には理由も記載している。さらに、計画に沿って実施したサービスの結果と、日常の様子を分けて介護記録に記載し、分かりやすいように工夫している。加えて、職員の気づきは、介護記録に記載されている。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプラン評価表に出来なかった理由を記入するようにしている。			◎		
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に細かく内容を記録している。			◎		
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	利用者の介護記録や申し送りノートに記録し職員が共有できるようにしている。			○		
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	介護記録の期間に応じて見直しを行っている。			◎	介護計画の長期目標は6か月に1回、短期目標は3か月に1回見直しをしている。月1回実施するユニット会議を活用して、ケアプラン評価表等をもとに職員間で話し合い、利用者の現状を確認している。また、大きな状態の変化が見られた場合には臨機応変に計画の見直しを行うものの、最近では該当事案は発生していない。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	ユニット会議において一人ずつケアプランの確認、見直しを行っている。			◎		
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	状態の変化にもない家族・職員と共に見直しを行い、ケアプランを作り直している。			○		
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月ユニット会議を行い、全員が統一したケアを行えるようにしている。			○	月1回、ユニット会議を実施し、職員間で話し合いをしている。事業所には人材派遣の介護職員もおり、各ユニットで全ての職員が参加した会議の開催は難しいものの、参加できなかった職員には議事録を回覧して確認してもらうとともに、重要事項は口頭で伝えるなど、職員間で共有できるよう努めている。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	要望など職員に聞き、自分の意見を言えるようにしている。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	日程など工夫しているが全員参加に至っていない。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	内容は文書に残し全員が確認できるようにしている。			◎		
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	口頭で申し送りしノートでも確認できるようにしている。			◎	毎日申し送りを実施して、口頭で伝達を行うほか、介護記録や申し送りノートを活用して、情報を共有している。また、申し送りノート等の確認後には、職員は押印を行い、確実な情報伝達につなげている。さらに、訪問調査日には、施設長から「職員全員が確認することができている」という話しを聞くことができた。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	個別の介護記録・口頭での申し送り・ノートからも確認できるようにしている。	◎				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者からお聞きしたり、ケアプランに取り入れ実行できるようにしている。	/	/	/	食事の献立づくりや着る服など、職員は生活の至る場面で、利用者に声をかけて、確認しながら自己決定等をしてもらえるよう努めている。また、事前に、アセスメント表等で把握している生活歴や好みに基づき、職員が声をかけるなど、少しでも楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	声かけ環境作りに努めている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者一人ひとりの性格や状態を把握し納得しながら暮らせるよう支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	入浴など拒否があれば時間や日にちをずらし快く応じて下さるよう支援している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者一人ひとりに合わせた声かけや雰囲気づくりに努めている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や全身での反応を観察し利用者の思いを探り支援するよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修に参加し職員全員で「人権」「尊厳」について学び誇りやプライバシーを大切にしたい声かけをしている。	◎	○	◎	オンライン機能を活用した外部研修や、持ち回りで職員が講師をする勉強会等を活用して、職員は人権や尊厳などを高く意識した言動に努めている。また、研修に参加できない職員にも資料を渡し、職員間で情報を共有している。また、職員は、尊厳に配慮したさりげない声かけをすることができている。さらに、排泄時には、利用者の羞恥心を考慮し、ひざ掛けなどの目隠しをする対応もしている。加えて、居室への入室時にも、職員は常にノックをしてから入室する習慣が身に付いている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	人生の先輩として敬意を払い声かけ・対応に十分配慮している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	ドアを開めタオルや膝掛けを用意しプライバシーに配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	ノックや声かけなどプライバシーに配慮し出入りを行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	研修に参加しプライバシー保護や個人情報漏えい防止を理解し遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯物を畳んで頂いたりモップ掛けをして頂いた後は、その都度感謝の気持ちをお伝えしている。	/	/	/	利用者同士の相性が合わない場合があるものの、職員は関係性などを把握して、仲の良い利用者を横並びにするなど、配席の考慮をしている。また、どうしても相性が合わない場合もあり、他の利用者が興奮しないように、職員がさりげなく間に入るなどの対応をして、トラブルにならないよう努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	食事の声かけ、下膳など協力し合ってもらえるよう配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	気の合う利用者同士同じテーブルに座って頂いたり、トラブルになりそうな時は職員が間に入り孤立しないよう配慮している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	両者から話しを聞きトラブル解消に努め不安を取り除くよう支援している。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの丘

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	センター方式を活用し人間関係の把握に努めている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	利用者はもちろん家族にも入所時や面会時にお聞きし把握に努めている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ禍により外出が制限されたが、知人や友人等とは電話やリモートを活用し関係が途切れないよう支援した。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	コロナ禍により、感染状況により場所や時間等の制限はあったができるだけ居心地よく過ごせるように努めた。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	晴れの日には感染予防に配慮し、散歩やドライブ等重度・軽度関係なく平等に出かけられるよう取り組んだ。	○	○	◎	現在のコロナ禍において、人混みを避けて、積極的に事業所周辺の散歩やドライブなどを行い、利用者が少しでも気分転換ができるよう支援している。訪問調査日には、廊下の壁に、コスモス畑の見学に出かけた写真を飾ってある様子を見ることができた。また、重度の利用者も、各階にあるウッドデッキに出て、海の景色を眺めながら外気に触れたり、事業所のある建物周辺を散歩したりすることができている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ禍により地域の人やボランティアなどの協力を得ることはできなかった。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	○	重度の利用者も軽度の利用者も関係なく、天気の良い日は散歩や日光浴を行っている。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	コロナ禍により、家族や地域の人々の協力を得ることができず、外出することが出来なかった。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修や勉強会に参加し認知症や行動、心理症状について理解し状態や症状の変化を見逃さないようにしている。				新たに、利用者ができることを発見した場合には、職員は申し送りノートに記載して情報を共有している。また、できることは可能な範囲で利用者自身にしてもらい、職員の過剰な介護にならないように、見守りや待つ介護に努めている。さらに、洗濯物たたみなどの生活リハビリや毎日の体操を取り入れ、少しでも心身機能の維持が図れるよう努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人ひとりのケアプランの中に身体能力に応じたプランを作成し、身体機能の低下を予防や維持向上に努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	過剰介護にならないよう本人の意欲を発揮できるよう働きかけている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	趣味や特技を把握し、一人ひとりに合った活動ができるようプランを立て実行している。				洗濯物干しや食器の下膳、お盆拭き、飾りの作成など、職員は手伝い全般で、何か利用者のできる役割や出番づくりに努めている。中には、足の不自由な利用者もおり、「洗濯物たたみ」を介護計画に入れて、取り組んでいる利用者もいる。また、訪問調査日には、日めくりカレンダーの管理やモップ掛け、行事の写真貼りなど、職員が見守りながら利用者と一緒にやる様子を見ることができた。さらに、コロナ禍以前には地域の盆踊り大会や文化祭、運動会に出かけたりするなど、事業所では利用者を楽しみが持てるような支援を行うことができていた。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	重度になっても一人ひとりの楽しみや役割や出番を作ることができるようプランに取り入れている。	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	以前は地域の運動会・文化祭・盆踊り大会に参加し楽しむことができていたが、コロナ禍により参加できなかった。				

愛媛県グループホームすみの丘

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	家族や利用者から好みをお聞きし一人ひとりの個性を大切にしている。				衣服などの汚れや乱れが見られた場合には、職員は利用者 に配慮をしながら、さりげない声かけやフォローなどの対応をしている。また、重度の利用者であっても、着る服などの選択肢を提示して、本人の意向を確認した上で支援することができている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	個性を尊重し利用者の好みで整えられるよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	利用者の気持ちに寄り添いアドバイスを行っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	行事や季節に合わせた服装を楽しめるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	衣類の汚れた時には自尊心を傷つけないよう十分に配慮し清潔でいられるよう支援している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	コロナ禍により外出せず、感染対策が十分に出来ている業者で訪問カットを利用している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	モーニングケアや入浴後など利用者らしさを保てるよう支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	研修会の参加やミーティングなど全職員で知識向上に努めている。				ユニット毎に職員が交代で、利用者にご下しらせや配膳などを手伝ってもらいながら、薄味を心がけた料理をしている。事業所では、可能な範囲で利用者の好みのメニューを取り入れた食事を提供している。利用者がその日のチラシを見て、「〇〇が食べたい」などの意見にも、できる限り柔軟に対応をしている。入居前に、利用者のアレルギーの有無などを把握して、代替食や食材を使用しない対応をしている。食器類は、利用者が使い慣れた物を持ってきてもらい、使用している。事業所では、一部の職員が利用者と同じ物を食べるようにしているものの、利用者の心身機能の機能低下が進んで、食事介助を必要とする利用者が増加したため、現在は一緒に食事を摂ることはできていない。また、利用者の状態に合わせて、刻みやトロミ食などの食事形態にも対応している。さらに、リビング内にはキッチンがあり、重度の利用者も含めて、調理の過程を見たり、匂いや音を感じたりすることができ、少しでも食事が楽しみになるよう支援している。加えて、職員間で食事のことを話し合うとともに、法人本部にいる栄養士から、献立や食事量などの助言をもらうこともできている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	配膳・下膳・テーブル拭きなど行って頂いている。献立づくりは、利用者からの要望をお聞きし取り入れている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	感謝の気持ちをお伝えし利用者の自信につなげている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	利用者や家族に好き嫌いやアレルギーをお聞きし把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節に応じ旬の物を取り入れ利用者の好みに合わせ考えている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	一人ひとりの健康状態に合わせ調理している。ミキサー食の方にも彩りや盛り付けを工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	家族に協力して使い慣れたものを使って頂いている。また使いやすい物を使用している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	介助が必要な利用者が多い為食事を一緒に食べることが難しい。食べこぼしなどに対する見守り・サポートを行っている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	調理の音やにおいを通して食事を楽しくして頂くようにしている。時にはカウンターから食事作りをしながら味見をして頂いたり、会話をしたりしている。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	水分量が少ない利用者がおられたら摂取量を記録し確保できるよう努めている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	利用者の好みの飲み物を用意したり回数やタイミングの工夫を行っている。必要な利用者には栄養補助食品を提供し低栄養にならないよう配慮している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士による献立は作られている。個別に体重の増減や血圧は落ち着いているかなど配慮しながら調理している。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食材により調理器具を別にしていて、食材は新鮮で安全な物を提供している。				

愛媛県グループホームすみの丘

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	研修に参加したりユニット会議で知識の習得を行い理解できている。				職員は勉強会や歯科医の訪問時にアドバイスをもらいながら、口腔内の重要性を学び、理解をしている。特に誤嚥には気をつかい、常に職員は気を付けている。また、毎食後に利用者は口腔ケアを実施し、できることは自分でしてもらい、職員は見守りや磨き残しなどの介助をするとともに、口腔内の状況を確認している。さらに、食事が少ない利用者には、歯科医の診療につなげて、対応をすることもある。加えて、利用者の噛み合わせにも気を配っている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケアの際、口の中の状態を把握している。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医が診察に来られた際アドバイスを頂き、正しいケアができている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	ブラッシング方法や装着の仕方を学び適切に行えている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	見守りや声かけを行い自分ができる利用者にはケアを行って頂いている。仕上げはスタッフが正しい口腔内の観察を行っている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	食べるペースが遅くなったり不具合が見られたら早急を受診を受けるようにしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	排泄管理表を活用し、排泄パターンを把握し時間誘導を行うなど失敗のないよう支援している。				職員は、記載した排泄表を確認しながら、排泄パターンを把握して、声かけやトイレ誘導をしている。また、事業所では可能な範囲で、利用者がトイレでの排泄を心がけた支援に努め、排泄回数の多い利用者にも対応をしている。また、必要に応じて、適切な紙パンツやパッドなどの排泄用品を職員間で話し合い、家族に確認の上で使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	勉強会やミーティングに参加し知識の習得に努めている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄管理表を活用しパターンや習慣を把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	トイレで排泄することを基本として支援している。オムツやパッドについては必要性や適切性を十分話し合っている。		◎	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	水分量や食事をチェックし要因・原因を探り改善できるよう取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄管理表を活用し排泄パターンを把握している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	一人ひとりの排泄パターンを報告し、家族や本人と話し合い自分で使えるものを選択できるようアドバイスしている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	状態に合わせて下着やおむつを使用している。定期的に職員間で話し合い見直しを行っている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分補給や体操など一人ひとりの状態に合わせて支援している。食事のメニューにも乳製品や植物繊維を多く取り入れている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	利用者の希望に合わせて入浴ができるよう支援している。		◎	○	事業所では、利用者の入浴回数を決めていないものの、2～3日に1回入浴できるよう支援している。また、午前中の時間帯を活用して、入浴支援をしている。さらに、入浴拒否等のある利用者には無理強いをせず、午後や日にちを変更するとともに、タイミングを図りながら声かけを行うなど、職員は工夫をしながら入浴をしてもらうことができている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	プライバシーの保護に努めリラックスして入浴して頂いている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	残存機能を活かしできないところは職員が介助している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	拒否する利用者には時間や日にちをずらし入浴して頂けるよう工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタル測定を行い健康状態の確認を行い入浴の可否を見極め入浴後の状態も確認している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	2時間毎の巡回を行い、睡眠パターンを把握している。	/	/	/	事業所では安易に薬に頼ることなく、日中の活動量を増やしたり、医師と相談したりしながら、利用者が夜間に良眠できるよう支援している。また、入居後に不眠で服薬につながる利用者は少ないものの、入居前から眠剤などの服薬している利用者が、継続をしている場合もある。さらに、昼寝などの生活リズムにも配慮した支援にも努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動を増やしたり、時には就寝前に足浴を行うことにより生活リズムが整うよう支援している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	むやみに薬に頼らず、利用者の活動量や日中の過ごし方を職員間で話し合い検討し、主治医にも相談している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	1日1回居室で休めるよう配慮している。日中睡眠を取りすぎないように配慮している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯電話を持たれている利用者もおられ家族といつでも会話されている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	代筆や電話の取り次ぎを行い手助けしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	本人の希望・家族の了解があれば、いつでも電話できるよう配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	利用者宛の手紙などは利用者にお渡し、字が読めない利用者には了解を得て読むなど行っている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話かけることに了解を頂いているが、仕事をしているなどもあり難しいケースもある。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	自己管理の必要性やお金を使うことにより脳の刺激・活性化を理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	家族の了解を得て、利用者には手渡し見守りしながら支払いする機会を作っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	職員が同行し気兼ねなく安心して買い物ができるよう支援している。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談し一人ひとりの希望に応じて、お金を所持したり使えるようにしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	お出かけや行事の際あらかじめ家族からの了解を得ている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	事前にすべての家族の同意を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	状況やニーズに対応して柔軟な支援ができる体制を整えている。	◎	/	◎	事業所では、散髪での外出や病院への同行受診、家族への電話、買い物の代行など、可能な範囲で利用者一人ひとりの個別のニーズにも、柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関に花を飾ったり気軽に出入りしやすいよう配慮している。	◎	◎	○	事業所には広い駐車場があり、建物の外にはベンチが設置されている。また、玄関を入ると花が飾ってあり、来訪者が気軽に入れるような配慮がされている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	共有スペースは、広くゆとりのある空間となっている。利用者と一緒に毎月壁画を作成し季節に合ったものを展示している。	◎	◎	◎	各階にはウッドデッキがあり、開放的な雰囲気海を眺めることができる。特に1階にあるテラスは広く、屋外気分では食事を摂ることもできる。リビングには、利用者と職員と一緒に作成した季節の飾り付けをするなど、家庭的な雰囲気づくりをしている。また、事業所内は整理整頓され、掃除や消毒も行き届き、不快な臭いなどは感じられない快適な空間となっている。さらに、廊下には最近の外出行事などの写真が飾られるとともに、アルバムの閲覧を自由にするなど、利用者が楽しい行事を思い出しながら、会話が弾むような工夫もしている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	トイレの汚れはすぐに清掃し常に清潔を保つようにしている。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	ベランダからは瀬戸内海が一望でき、南向きに面した前面ガラス窓の大変明るい居心地の良い空間になっている。					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングにはソファを置いてくつろげる環境を作っている。					
		e	トイレや浴室の内部が見えないようになっておりプライバシーが確保できている。	○	トイレや浴室の内部が見えないようになっておりプライバシーが確保できている。					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	居室は馴染みの家具や写真を置き利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎			居室には、ベッドと大きめのタンスが備え付けられている。また、テレビやソファ、机など、馴染みの物や使い慣れた物などを自由に持ち込むことができ、利用者に合わせて居心地の良い空間づくりを支援している。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	廊下や浴室・トイレには手すりを設置し安全面にも配慮している。「できること」「できないこと」「わかること」を一人ひとり把握し自立した生活が送れるよう工夫している。			◎	事業所にある洗面台は、高さを調節することができ、口腔ケア時には、自分でできることを増やすために、高さ調節をして、安心安全に使用をしている。また、新聞や雑誌など、利用者が手に取れる場所に配置している。さらに、分かりやすい表示をするなど、様々な工夫をしながら、利用者が混乱をせずに、生活が送れるよう支援している。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	わかりやすいよう絵や大きな文字で表示している。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や本などいつでも手に取れるよう配慮している。					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	鍵をかけることのデメリットを勉強会で理解できている。	x	◎	△	職員は勉強会等を活用して、鍵をかけることのデメリットを理解している。現在のコロナ禍において、事業所内の建物の広さを活用しながら、感染症対策の徹底で玄関等の施錠をしている。コロナ禍以前は、日中には玄関等の施錠はしていなかった。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	玄関・ユニット出入り口は鍵をかけず自由な暮らしができるようにしている。施錠を望む家族には十分に説明をし理解を得ている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関に鍵をかけず家族や地域の方が自由に出入りできるよう配慮している。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	アセスメントや往診記録の確認をし常に把握できるようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎朝バイタルチェックを行い介護記録を利用し詳細を記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	いつでもかかりつけ医に報告・相談できるように連携体制が整っている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居時に希望医療機関があれば意向に添えるよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	家族、本人の希望を確認しかかりつけ医と連携し医療を受けられるよう支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院への同行が可能であればお願ひし、できなかった時は詳細をお伝えしていることで共有している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	日常生活の内容や既往歴等のサマリー提供や口頭情報提供をしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	蜜に連絡をとり、万全な体制で受け入れられるよう情報交換、相談に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	日頃から連携体制を整えており相談できる関係作りを努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日常の気づきを看護職や訪問看護師に報告し相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護職や協力医療機関にいつでも相談できる体制が整っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	状態変化があった時に適切に指示を仰ぐことができ、早期発見・治療ができている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	個人別に薬ボードを作成している。薬の目的・副作用がわかるように記載している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	複数の職員が確認を行うマニュアルができている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	毎日の申し送り、記録で状態変化の気づき早期に発見できるようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	毎日細かく状態観察、記録を行い変化があった時は家族や主治医に報告している。				

愛媛県グループホームすみれの丘

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時や必要な時期に終末期について話し合いを行い、その意向を話し合いながら方針を共有できている。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合の対応に係る指針(看取り介護指針)」があり、入居時に利用者や家族に説明して、同意を得ている。重度化などの状態に応じて、利用者や家族、主治医などの関係者を交えて話し合い、方針を共有して支援をしている。また、訪問調査日の直近の1年間で、事業所では4名の看取り介護を経験している。さらに、事業所には看取り専用の記録様式はないものの、家族や他の関係機関と連携を図りながら、丁寧に記録を残すことができている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	◎	利用者・家族だけでなく職員・医療関係者と話し合い方針を共有している。	○	◎	/	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員の思いや力量を把握し、不安のない体制で対応できるよう指導している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	事業所の対応方針について十分な説明を行い、理解を得ることができている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族や医療関係者と連携を図りながら支援していく体制を整えている。また今後の変化に備えて検討も行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の心情、事情を受け止め精神面での支えになれるよう努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会やショートミーティングで感染症に対する研修を定期的に行っている。	/	/	/	/
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症に対する予防や対応は学んだことを活かして速やかに対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	行政や医療機関、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の発生状況の情報を得ることができている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、流行に随時対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員・利用者は手洗いやうがい・マスクの着用を徹底しており、面会者が来られても手洗いやうがい・マスクが着用できるよう準備している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族の要望をお聞きし一緒に検討し、利用者を支えていくようにしている。	/	/	/	コロナ禍以前は、事業所から地域の花火大会の開催時には、家族に呼びかけて、利用者と一緒に絶景を楽しむことができていたが、現在は感染症対策のために、家族の参加できる行事の開催を自粛している。また、コロナ禍においても、ガラス越しでの面会に対応するとともに、電話連絡時には、家族に利用者の様子を伝え、意見や要望を聞くことができている。また、写真を多く取り入れた事業所便りを発行するとともに、個別に担当職員等がユニットからのお知らせを書き、請求書の送付時に連絡事項と合わせて送付をしている。さらに、事業所の運営上の事柄は、職員の異動も含めて運営推進会議録を全ての家族に発送することで、伝えることができる。加えて、家族が意見を言いやすいように運営推進会議の事前アンケートを送付したり、定期的に電話連絡で利用者の様子を伝えたりするなど、家族との良好な関係を築いている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	以前は家族が訪れた時はお茶を提供し利用者とゆっくり過ごして頂けるよう対応していたが、コロナ禍により面会場所は感染対策ができる2階ホールで時間を制限し、面会して頂いている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	以前は、夏祭りや花火大会には利用者と食事をしたり花火を見るなど一緒に楽しんで頂いていたが、コロナ禍により家族の参加は控えて頂いている。	○	/	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月のお便りや近況報告を行っている。面会時には記録を見て頂きながら日常の様子を伝えている。	/	◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	面会時にはさりげなく伺うようにしている。意見箱を設置し不安内容などの収集に努めている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症についての理解を深めて頂き、適切な接し方や対応について話し合うようにしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	お便りや運営推進会議案内書の中で行事報告している。アンケート用紙を同封し家族の意見や要望など記入して頂くようにしている。職員の異動に関しては直接説明したり文書で報告している。	/	×	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナ禍により家族同士の交流は自粛している。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	体調変化に伴うリスクについてを説明し利用者にとっての良い対応策を話し合い理解して頂けている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	気持ちの良い挨拶を心がけ、気軽に相談して頂けるような声かけや雰囲気づくりに努めている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時には文章と合わせて説明補足を行い理解し納得して頂けるようにしている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	体調面で施設の生活が困難になった症例があった。入院先の主治医と家族と一緒に話し合いを行い納得して頂いた。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	改定がある場合はその都度、文章と口頭で説明し同意を得ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議で事業所の目的や役割を説明し理解を頂けている。	/	○	/	現在のコロナにおいて、事業所では地域住民と交流が持てる機会は激減している。事業所周辺の散歩時には、地域住民に挨拶をしている。また、地域の民生委員から電話連絡をもらい、事業所の様子を確認されることもある。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	以前は地域行事や活動への参加をすることで地域の方々との交流。(盆踊り・運動会・秋祭り・文化祭・町内清掃など)が図れていたが、コロナ禍により地域行事は中止となっている。電話や訪問などで日常の挨拶は行うようにしている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	必要時には町内放送をして頂ける関係作りができています。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	以前は夏祭りや花火大会行事などお誘いはしていたが、コロナ禍により気軽に交流することは自粛している。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらするなど、日常的なおつきあいをしている。	△	気軽に立ち寄り頂けるよう運営推進会議の時に働きかけている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	ボランティアは積極的に受け入れるようにしているが、コロナ禍により自粛している。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	以前は利用者一人ひとりの心身の力を発揮できるよう地域行事に積極的に参加していたが、コロナ禍により自粛している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	地域の商店や美容院などに協力して頂いていたが、コロナ禍により協力して頂くのが難しくなっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	コロナ禍により文書開催になっているが、活動内容等を報告し様々な意見やアドバイスを頂いている。	◎	/	○	運営推進会議は、利用者や家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター、市担当者等の参加を得て開催をしている。現在のコロナ禍において、集合形式での会議は開催していないものの、事前に参加メンバーや家族から意見を聞き、意見が会議に反映されるよう工夫している。また、出された意見や要望に回答した議事録を、参加メンバーや家族に送付をすることもできている。さらに、会議録やサービスの評価結果を玄関に置き、来訪者などが閲覧できるようにしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	毎回利用者の状況や活動・出来事を報告している。外部評価の内容・目標達成計画の内容と取り組みを文章と口頭で報告している。	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	文書開催ではあるが、参加者全員に感想や意見を伺うようにし、日々の取り組みやサービス向上に活かせるようにしている。	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	以前はメンバーが参加しやすい曜日や時間帯について配慮していたが、コロナ禍により文書開催となっている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	全員に文書で報告している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作成し全員が理念に基づいたものになるよう取り組んでいる。				事業所では勉強会等を開催するほか、積極的に外部研修に参加して、職員のスキルアップに努めている。また、施設長は職員の様子を観察しながら、元気がない場合には面談や相談に応じることができている。さらに、多角的に事業所を運営しているため、代表者が来訪する機会はほとんどないものの、法人の担当者が訪問するとともに、施設長等が管理者会議に参加し、必要に応じて、職員の意見や要望を伝えることもできている。さらに、法人・事業所では、職員が意欲を持ちながら働けるように、人事評価等を導入するとともに、職員の意見や要望を聞きながら、働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	目につきやすい玄関の入り口に掲示し、家族・利用者・地域の方々にも理念を伝えている。	○	△		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員全体が法人・内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。				
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員が働きながらスキルアップできるような積極的に取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職員に自己評価してもらい個々の努力や実績・勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地区のグループホーム連絡会やケアマネ合同研修会に参加し交流をしている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	スタッフとの面談する機会をつくり、体調やストレスについて問題ないか配慮している。	◎	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	内部・外部研修に参加し虐待防止について学び、日頃の事例で検討する機会を設けている。				
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎日のミーティングでケアの疑問点や意見を話し合っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待や不適切なケアの事例に基づいた勉強会やミーティングで意見交換を行っている。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	職員と面談を行い、疲労やストレスを感じていないか把握するようにしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会を設け資料を配布して全ての職員が理解できるようにしている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束について話し合いの場を設け身体適正化委員会を実施している。				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族からの要望があっても、利用者の及ぼす弊害について説明し拘束を行わないケアの具体的な内容を示し理解を頂いている。				

愛媛県グループホームすみれの丘

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	内部研修や外部研修で知識・理解を深めている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	家族からの相談があれば情報を提供する準備はしている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括センターに相談できる関係づくりを築いている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	利用者の急変時の対応はマニュアルを作成し落ち着いて対応できる体制を整えている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	救急隊より指導を受け、実践できるようにしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハット・事故報告書作成しその日のうちに話し合い、ユニット会議でも再検討し事故防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	毎日のミーティングや勉強会で話し合い、安全な環境整備・ケアの仕方に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアルを作成し職員は周知している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	相談・苦情があればマニュアルに添って早急に対応し書面に残すようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった場合は、事実確認を行い謝罪し今後の方針を伝え納得して頂けるよう努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	話しやすい雰囲気・環境作りを行い、さりげなくお聞きするようにしている。			○	日々の生活の中で、職員は利用者から意見を聞くように努めている。意見はなかなか出されないため、言動や表情などを見逃さずに観察をするように努めている。家族からは、面会時や電話連絡時を活用して、意見を聞くよう努めている。また、日々の業務やミーティング等の中で、施設長や管理者は、職員の意見を聞く体制づくりをしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時など事業所から積極的に意見・要望をお聞きするようにしている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関に意見箱を設置し、投稿できるようにしている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	自ら現場に足を運び、職員の意見や要望・提案などを直接聞くようにしている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	管理者は一人ひとりから意見や提案を聞く機会をもち、利用者本意の支援をしている。			○	

愛媛県グループホームすみれの丘

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組み、管理者等を中心に取りまとめている。また、サービスの評価結果は、運営推進会議の中で報告をすることで、議事録を参加メンバーや全ての家族に送付して周知を図ることができている。さらに、サービスの評価結果を玄関に置き、来訪者などが閲覧できるようにしている。コロナ禍の収束後には、取組み状況の確認のモニターの協力を、家族や会議の参加メンバーに呼びかけるなど、意見をもらい反映させながら、サービスの質の向上につながることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題や問題点が明らかになると早急に毎日のミーティングやユニット会議で話し合っている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	実現可能な目標を話し合い事業所全体で達成できるよう取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で事業所の目的や役割を説明し理解を頂いている。報告し、いつでも閲覧できるよう施設内にて掲示している。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	事業所内で取り組みの成果について確認するようにしている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	様々な災害の対応マニュアルを作成し周知に努めている。				事業所では、年2回避難訓練等を実施するほか、年1回実際の消火訓練や防災訓練を実施している。また、事業所は高台に立地しており、土砂崩れの可能性があるため、定期的に1階から2階へ垂直避難をする訓練も実施している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	マニュアルに基づき、様々な時間を想定し安全に避難できるよう訓練している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消防設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品など定期的に点検している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議の際消防署の方から訓練の仕方や避難方式等教えて頂き、訓練を行っている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地区の防災訓練があれば利用者も一緒に参加するようにしている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	内部・外部研修に参加し運営推進会議などでテーマとして取り上げ講習を行っている。				事業所は高台に立地していることもあり、地域住民等からの相談はあまり寄せられない。運営推進会議等に参画している民生委員を通して、相談等に応じることもある。また、現在のコロナ禍において、関係機関との連携は難しいものの、市行政や地域包括支援センターの会議や研修等に、可能な範囲で参加協力をしている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	運営推進会議の際、相談や支援が行えることを伝えている。		○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	夏祭りなどのイベントを開催し交流の場を広げているが参加者は少ない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	介護人材やボランティアの養成があれば受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域関係者に働きかけ、イベントや地域活動に参加している。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 11 月 16 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3870105628
事業所名	グループホーム すみれの丘
(ユニット名)	そら
記入者(管理者)	
氏名	政岡 美知子
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 30 日

<p>【事業所理念】</p> <p>私たちは、利用者の方々の「その人らしい生活」を大切に、穏やかで安心感にあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>入居前の利用者の基本情報を誰にでも容易に理解できるようセンター方式なども取り入れ、職員全員が把握できるようにした。また面会時に、職員の異動、入・退職がある場合は職員から挨拶をするよう徹底している。また文書でも報告している。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は、市西部の海岸線沿いの小高い丘に立地している。2階建ての事業所には各階にウッドデッキがあり、見晴らしの良い海などを眺めながら、日々ゆったりと利用者が過ごせるよう支援している。現在のコロナ禍においても、人混みなどを避けながら、積極的に事業所周辺の散歩やドライブなどを行い、利用者が少しでも気分転換ができるよう支援している。また、地域の花火大会の開催時には、家族に呼びかけて、利用者と一緒に絶景を楽しむことができている。さらに、事業所では、施設長や管理者を中心に、職員間でのチームワークの良さを自慢することができ、事業所理念にある「その人らしい生活」を大切にしながら、穏やかで安心感にあふれる生活をサポートしている。今後も、利用者ができていることを継続してもらいながら、さらなるステップアップが楽しめる事業所である。</p>
--	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思い暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居前や入居時に思いや暮らし方の希望を聞き把握している。急な希望でも対応している。	◎	/	○	入居前に、事業所では利用者や家族に、これまでの暮らしなどを記入してもらい、家族シートやアセスメント表に反映させている。また、入居時に情報を確認するとともに、日々の生活の中で、職員は利用者から思いなどを聞き、把握できるよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日頃の会話から利用者の思いを探るように努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族様には面会時「利用者の思い」について話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	利用者からお聞きした事は介護記録に記入し職員全員が共有できるようにしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	利用者とのコミュニケーションを図り、言動や思いをくみとれるようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居時にセンター方式シートを使用し家族やケアマネージャーから情報収集し把握に努めている。	/	/	◎	入居前に、事業所では利用者や家族に、これまでの生活歴などを記入してもらいほか、入居時にもアセスメント表を活用して、情報を確認している。また、センター方式のアセスメント表の様式を一部活用して、詳しい情報の把握に努めている。さらに、日々の生活の中で利用者から聞いた、面会時等に家族から聞き取った新たな情報は、申し送りノートや介護記録に記載し、職員間で情報を共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	精神状態や残存機能の把握等、職員間で共有できるよう話し合っている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日常の様子を記録にすることで把握するようにしている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	不安による要因や状況を職員間で話し合うことで把握できるようにしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録に日々のリズムや言動を記録し把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	利用者や家族に確認し、本人に必要な支援ができるよう検討している。	/	/	○	入居時に、計画作成担当者等がアセスメント表を活用して、生活歴や趣味、職業歴、生活習慣などの項目を、丁寧に聞き取りをしている。また、アセスメント情報をもとにして、利用者や家族、関係者から意見を聞き、月1回のユニット会議を活用して、職員間で話し合いをしている。さらに、事業所では、新たに得た追加情報が申し送りノートや個別記録等に記載されているため、限られた時間の中においても、アセスメント表に色を変えて追記するなど、定期的に情報が更新されることを期待したい。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	利用者の言動を大切に、職員全員で必要な支援を検討するようにしている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	日々の記録、利用者の言動から困りごとの把握に努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの丘

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	利用者だけでなく家族からも情報を得て、対応している。				事前に、利用者から意見を聞くとともに、家族から面会時等を活用して、意見の聞き取りをしている。また、主治医などの関係者から指示やアドバイスを受けるとともに、職員間でアイデアを出し合いながら話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	利用者からの聞き取りや家族が来所された時にお聞きし、職員全員でアイデアを出し検討している。	◎		○		
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	入居以前の事を家族からお聞きし、プランに取り入れて実行できるようにしている。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ禍で地域の協力体制は出来なかったが、家族とは手紙やりもとの面会を行っている。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	毎日ケアプラン評価表を活用し職員全員が把握・理解し実践できるようにしている。			◎	事業所では、ケアプラン評価表に介護計画やサービスの実施内容が一覧で表記され、職員間で共有をすることができている。また、日々のケアプランに沿ったサービスの実施状況の有無を○×の印を付けて評価をするとともに、×の場合には理由も記載している。さらに、計画に沿って実施したサービスの結果と、日常の様子を分けて介護記録に記載し、分かりやすいように工夫している。加えて、職員の気づきは、介護記録に記載されている。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	ケアプラン評価表に出来なかった理由を記入するようにしている。			◎		
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に細かく内容を記録している。			◎		
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	利用者の介護記録や申し送りノートに記録し職員が共有できるようにしている。			○		
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	介護記録の期間に応じて見直しを行っている。			◎	介護計画の長期目標は6か月に1回、短期目標は3か月に1回見直しをしている。月1回実施するユニット会議を活用して、ケアプラン評価表等をもとに職員間で話し合い、利用者の現状を確認している。また、大きな状態の変化が見られた場合には臨機応変に計画の見直しを行うものの、最近では該当事案は発生していない。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	ユニット会議において一人ずつケアプランの確認、見直しを行っている。			◎		
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	状態の変化にもない家族・職員と共に見直しを行い、ケアプランを作り直している。			○		
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月ユニット会議を行い、全員が統一したケアを行えるようにしている。			○	月1回、ユニット会議を実施し、職員間で話し合いをしている。事業所には人材派遣の介護職員もおり、各ユニットで全ての職員が参加した会議の開催は難しいものの、参加できなかった職員には議事録を回覧して確認してもらうとともに、重要事項は口頭で伝えるなど、職員間で共有できるよう努めている。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	要望など職員に聞き、自分の意見を言えるようにしている。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	日程など工夫しているが全員参加に至っていない。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	内容は文書に残し全員が確認できるようにしている。			◎		
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	口頭で申し送りしノートでも確認できるようにしている。			◎	毎日申し送りを実施して、口頭で伝達を行うほか、介護記録や申し送りノートを活用して、情報を共有している。また、申し送りノート等の確認後には、職員は押印を行い、確実な情報伝達につなげている。さらに、訪問調査日には、施設長から「職員全員が確認することができている」という話しを聞くことができた。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	個別の介護記録・口頭での申し送り・ノートからも確認できるようにしている。	◎				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者からお聞きしたり、ケアプランに取り入れ実行できるようにしている。	/	/	/	食事の献立づくりや着る服など、職員は生活の至る場面で、利用者に声をかけて、確認しながら自己決定等をしてもらえるよう努めている。また、事前に、アセスメント表等で把握している生活歴や好みに基づき、職員が声をかけるなど、少しでも楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	声かけ環境作りに努めている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者一人ひとりの性格や状態を把握し納得しながら暮らせるよう支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	入浴など拒否があれば時間や日にちをずらし快く応じて下さるよう支援している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者一人ひとりに合わせた声かけや雰囲気づくりに努めている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や全身での反応を観察し利用者の思いを探り支援するよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修に参加し職員全員で「人権」「尊厳」について学び誇りやプライバシーを大切にされた声かけをしている。	◎	○	◎	オンライン機能を活用した外部研修や、持ち回りで職員が講師をする勉強会等を活用して、職員は人権や尊厳などを高く意識した言動に努めている。また、研修に参加できない職員にも資料を渡し、職員間で情報を共有している。また、職員は、尊厳に配慮したさりげない声かけをすることができている。さらに、排泄時には、利用者の羞恥心を考慮し、ひざ掛けなどの目隠しをする対応もしている。加えて、居室への入室時にも、職員は常にノックをしてから入室する習慣が身に付いている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	人生の先輩として敬意を払い声かけ・対応に十分配慮している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	○	ドアを開めタオルや膝掛けを用意しプライバシーに配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	ノックや声かけなどプライバシーに配慮し出入りを行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	研修に参加しプライバシー保護や個人情報漏えい防止を理解し遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯物を畳んで頂いたりモップ掛けをして頂いた後は、その都度感謝の気持ちをお伝えしている。	/	/	/	利用者同士の相性が合わない場合があるものの、職員は関係性などを把握して、仲の良い利用者を横並びにするなど、配席の考慮をしている。また、どうしても相性が合わない場合もあり、他の利用者が興奮しないように、職員がさりげなく間に入るなどの対応をして、トラブルにならないよう努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	食事の声かけ、下膳など協力し合って頂けるよう配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	気の合う利用者同士同じテーブルに座って頂いたり、トラブルになりそうな時は職員が間に入り孤立しないよう配慮している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	両者から話しを聞きトラブル解消に努め不安を取り除くよう支援している。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみの丘

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	センター方式を活用し人間関係の把握に努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	利用者はもちろん家族にも入所時や面会時にお聞きし把握に努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ禍で日常的な外出が出来ず、電話や手紙での関係継続を支援するよう努めた。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	コロナ禍により、時期によっては面会制限を設け感染防止対策を取りながら少人数での面会を支援した。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	晴れの日には感染予防に配慮し、散歩やドライブ等重度・軽度関係なく平等に出かけられるよう取り組んだ。	○	○	◎	現在のコロナ禍において、人混みを避けて、積極的に事業所周辺の散歩やドライブなどを行い、利用者が少しでも気分転換ができるよう支援している。訪問調査日には、廊下の壁に、コスモス畑の見学に出かけた写真を飾ってある様子を見ることができた。また、重度の利用者も、各階にあるウッドデッキに出て、海の景色を眺めながら外気に触れたり、事業所のある建物周辺を散歩したりすることができている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ禍により地域の人やボランティアなどの協力を得ることはできなかった。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	重度の利用者も軽度の利用者も関係なく、天気の良い日は散歩や日光浴を行っている。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	コロナ禍により、家族や地域の人々の協力を得ることができず、外出することが出来なかった。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修や勉強会に参加し認知症や行動・心理症状について理解し状態や症状の変化を見逃さないようにしている。	/	/	/	新たに、利用者ができることを発見した場合には、職員は申し送りノートに記載して情報を共有している。また、できることは可能な範囲で利用者自身にもらい、職員の過剰な介護にならないように、見守りや待つ介護に努めている。さらに、洗濯物たたみなどの生活リハビリや毎日の体操を取り入れ、少しでも心身機能の維持が図れるよう努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人ひとりのケアプランの中に身体能力に応じたプランを作成し、身体機能の低下を予防や維持向上に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	過剰介護にならないよう本人の意欲を発揮できるよう働きかけている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	趣味や特技を把握し、一人ひとりに合った活動ができるようプランを立て実行している。	/	/	/	洗濯物干しや食器の下膳、お盆拭き、飾りの作成など、職員は手伝い全般で、何か利用者のできる役割や出番づくりに努めている。中には、足の不自由な利用者もあり、「洗濯物たたみ」を介護計画に入れて、取り組んでいる利用者もいる。また、訪問調査日には、日めくりカレンダーの管理やモップ掛け、行事の写真貼りなど、職員が見守りながら利用者と一緒にやる様子を見ることができた。さらに、コロナ禍以前には地域の盆踊り大会や文化祭、運動会に出かけたりするなど、事業所では利用者へ楽しみが持てるような支援を行うことができていた。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	重度になっても一人ひとりの楽しみや役割や出番を作ることができるようプランに取り入れている。	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	以前は地域の運動会・文化祭・盆踊り大会に参加し楽しむことができていたが、コロナ禍により参加できなかった。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの丘

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	家族や利用者から好みをお聞きし一人ひとりの個性を大切にしている。				衣服などの汚れや乱れが見られた場合には、職員は利用者 に配慮をしながら、さりげない声かけやフォローなどの対応をしている。また、重度の利用者であっても、着る服などの選択肢を提示して、本人の意向を確認した上で支援することができている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	個性を尊重し利用者の好みで整えられるよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	利用者の気持ちに寄り添いアドバイスを行っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	行事や季節に合わせた服装を楽しめるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	衣類の汚れた時には自尊心を傷つけないよう十分に配慮し清潔でいられるよう支援している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	コロナ禍により外出せず、感染対策が十分に出来ている業者で訪問カットを利用している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	モーニングケアや入浴後など利用者らしさを保てるよう支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	研修会の参加やミーティングなど全職員で知識向上に努めている。				ユニット毎に職員が交代で、利用者にご下しらせや配膳などを手伝ってもらいながら、薄味を心がけた料理をしている。事業所では、可能な範囲で利用者の好みのメニューを取り入れた食事を提供している。利用者がその日のチラシを見て、「〇〇が食べたい」などの意見にも、できる限り柔軟に対応をしている。入居前に、利用者のアレルギーの有無などを把握して、代替食や食材を使用しない対応をしている。食器類は、利用者が使い慣れた物を持ってきてもらい、使用している。事業所では、一部の職員が利用者と同じ物を食べるようにしているものの、利用者の心身機能の機能低下が進んで、食事介助を必要とする利用者が増加したため、現在は一緒に食事を摂ることはできていない。また、利用者の状態に合わせて、刻みやトロミ食などの食事形態にも対応をしている。さらに、リビング内にはキッチンがあり、重度の利用者も含めて、調理の過程を見たり、匂いや音を感じたりすることができ、少しでも食事が楽しみになるよう支援している。加えて、職員間で食事のことを話し合うとともに、法人本部にいる栄養士から、献立や食事量などの助言をもらうこともできている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	配膳・下膳・テーブル拭きなど行って頂いている。献立づくりは、利用者からの要望をお聞きし取り入れている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	感謝の気持ちをお伝えし利用者の自信につなげている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	利用者や家族に好き嫌いやアレルギーをお聞きし把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	季節に応じ旬の物を取り入れ利用者の好みに合わせ考えている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人ひとりの健康状態に合わせ調理している。ミキサー食の方にも彩りや盛り付けを工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	家族に協力して使い慣れたものを使って頂いている。また使いやすい物を使用している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	介助が必要な利用者が多い為食事を一緒に食べることが難しい。食べこぼしなどに対する見守り・サポートを行っている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	調理の音やにおいを通して食事を楽しみにして頂くようにしている。時にはカウンターから食事作りをしながら味見をして頂いたり、会話をしたりしている。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	水分量が少ない利用者がおられたら摂取量を記録し確保できるよう努めている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	利用者の好みの飲み物を用意したり回数やタイミングの工夫を行っている。必要な利用者には栄養補助食品を提供し低栄養にならないよう配慮している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士による献立は作られている。個別に体重の増減や血圧は落ち着いているかなど配慮しながら調理している。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食材により調理器具を別にしていく。食材は新鮮で安全な物を提供している。				

愛媛県グループホームすみの丘

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	研修に参加したりユニット会議で知識の習得を行い理解できている。				職員は勉強会や歯科医の訪問時にアドバイスをもらいながら、口腔内の重要性を学び、理解をしている。特に誤嚥には気をつかい、常に職員は気を付けている。また、毎食後に利用者は口腔ケアを実施し、できることは自分でしてもらい、職員は見守りや磨き残しなどの介助をするとともに、口腔内の状況を確認している。さらに、食事が少ない利用者には、歯科医の診療につなげて、対応をすることもある。加えて、利用者の噛み合わせにも気を配っている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケアの際、口の中の状態を把握している。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医が診察に来られた際アドバイスを頂き、正しいケアができている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	ブラッシング方法や装着の仕方を学び適切に行えている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	見守りや声かけを行い自分ができる利用者にはケアを行って頂いている。仕上げはスタッフが正しい口腔内の観察を行っている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	食べるペースが遅くなったり不具合が見られたら早急を受診を受けるようにしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	排泄管理表を活用し、排泄パターンを把握し時間誘導を行うなど失敗のないよう支援している。				職員は、記載した排泄表を確認しながら、排泄パターンを把握して、声かけやトイレ誘導をしている。また、事業所では可能な範囲で、利用者がトイレでの排泄を心がけた支援に努め、排泄回数の多い利用者にも対応をしている。また、必要に応じて、適切な紙パンツやパッドなどの排泄用品を職員間で話し合い、家族に確認の上で使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	勉強会やミーティングに参加し知識の習得に努めている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄管理表を活用しパターンや習慣を把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	トイレで排泄することを基本として支援している。オムツやパッドについては必要性や適切性を十分話し合っている。		◎	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	水分量や食事をチェックし要因・原因を探り改善できるよう取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄管理表を活用し排泄パターンを把握している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	一人ひとりの排泄パターンを報告し、家族や本人と話し合い自分で使えるものを選択できるようアドバイスしている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	状態に合わせて下着やおむつを使用している。定期的に職員間で話し合い見直しを行っている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分補給や体操など一人ひとりの状態に合わせて支援している。食事のメニューにも乳製品や植物繊維を多く取り入れている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	利用者の希望に合わせて入浴ができるよう支援している。		◎	○	事業所では、利用者の入浴回数を決めていないものの、2～3日に1回入浴できるよう支援している。また、午前中の時間帯を活用して、入浴支援をしている。さらに、入浴拒否等のある利用者には無理強いをせず、午後や日にちを変更するとともに、タイミングを図りながら声かけを行うなど、職員は工夫をしながら入浴をしてもらうことができている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	プライバシーの保護に努めリラックスして入浴して頂いている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	残存機能を活かしできないところは職員が介助している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	拒否する利用者には時間や日にちをずらし入浴して頂けるよう工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタル測定を行い健康状態の確認を行い入浴の可否を見極め入浴後の状態も確認している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	2時間毎の巡回を行い、睡眠パターンを把握している。	/	/	/	事業所では安易に薬に頼ることなく、日中の活動量を増やしたり、医師と相談したりしながら、利用者が夜間に良眠できるよう支援している。また、入居後に不眠で服薬につながる利用者は少ないものの、入居前から眠剤などの服薬している利用者が、継続をしている場合もある。さらに、昼寝などの生活リズムにも配慮した支援にも努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動を増やしたり、時には就寝前に足浴を行うことにより生活リズムが整うよう支援している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	むやみに薬に頼らず、利用者の活動量や日中の過ごし方を職員間で話し合い検討し、主治医にも相談している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	1日1回居室で休めるよう配慮している。日中睡眠を取りすぎないように配慮している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯電話を持たれている利用者もおられ家族といつでも会話されている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	代筆や電話の取り次ぎを行い手助けしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	本人の希望・家族の了解があれば、いつでも電話できるよう配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	利用者宛の手紙などは利用者にお渡し、字が読めない利用者には了解を得て読むなど行っている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話かけることに了解を頂いているが、仕事をしているなどもあり難しいケースもある。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	自己管理の必要性やお金を使うことにより脳の刺激・活性化を理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	家族の了解を得て、利用者に手渡し見守りしながら支払いする機会を作っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	職員が同行し気兼ねなく安心して買い物ができるよう支援している。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談し一人ひとりの希望に応じて、お金を所持したり使えるようにしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	お出かけや行事の際あらかじめ家族からの了解を得ている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	事前にすべての家族の同意を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	状況やニーズに対応して柔軟な支援ができる体制を整えている。	◎	/	◎	事業所では、散髪での外出や病院への同行受診、家族への電話、買い物の代行など、可能な範囲で利用者一人ひとりの個別のニーズにも、柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関に花を飾ったり気軽に出入りしやすいよう配慮している。	◎	◎	○	事業所には広い駐車場があり、建物の外にはベンチが設置されている。また、玄関を入ると花が飾ってあり、来訪者が気軽に入れるような配慮がされている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	共有スペースは、広くゆとりのある空間となっている。利用者と一緒に毎月壁画を作成し季節に合ったものを展示している。	◎	◎	◎	各階にはウッドデッキがあり、開放的な雰囲気海を眺めることができる。特に1階にあるテラスは広く、屋外気分では食事を摂ることもできる。リビングには、利用者と職員と一緒に作成した季節の飾り付けをするなど、家庭的な雰囲気づくりをしている。また、事業所内は整理整頓され、掃除や消毒も行き届き、不快な臭いなどは感じられない快適な空間となっている。さらに、廊下には最近の外出行事などの写真が飾られるとともに、アルバムの閲覧を自由にするなど、利用者が楽しい行事を思い出しながら、会話が弾むような工夫もしている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	トイレの汚れはすぐに清掃し常に清潔を保つようにしている。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	ベランダからは瀬戸内海が一望でき、南向きに面した前面ガラス窓の大変明るい居心地の良い空間になっている。					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	リビングにはソファを置いてくつろげる環境を作っている。					
		e	トイレや浴室の内部が見えないようになっておりプライバシーが確保できている。	○	トイレや浴室の内部が見えないようになっておりプライバシーが確保できている。					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	居室は馴染みの家具や写真を置き利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎		○	居室には、ベッドと大きめのタンスが備え付けられている。また、テレビやソファ、机など、馴染みの物や使い慣れた物などを自由に持ち込むことができ、利用者に合わせて居心地の良い空間づくりを支援している。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	個々の状態を把握し食事の下膳や洗濯量等、スタッフと一緒にできる家事を行えるようにしている。			◎	事業所にある洗面台は、高さを調節することができ、口腔ケア時には、自分でできることを増やすために、高さ調節をして、安心安全に使用をしている。また、新聞や雑誌など、利用者が手に取れる場所に配置している。さらに、分かりやすい表示をするなど、様々な工夫をしながら、利用者が混乱をせずに、生活が送れるよう支援している。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	わかりやすい絵や大きな文字で表示している。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や本、CDなどいつでも手に取れるよう配慮している。					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	鍵をかけることのデメリットを勉強会で理解できている。		×	◎	△	職員は勉強会等を活用して、鍵をかけることのデメリットを理解している。現在のコロナ禍において、事業所内の建物の広さを活用しながら、感染症対策の徹底で玄関等の施錠をしている。コロナ禍以前は、日中には玄関等の施錠はしていなかった。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	玄関・ユニット出入り口は鍵をかけず自由な暮らしができるようにしている。施錠を望む家族には十分に説明をし理解を得ている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関に鍵をかけず家族や地域の方が自由に出入りできるよう配慮している。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	アセスメントや往診記録の確認を常に把握できるようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎朝バイタルチェックを行い介護記録を利用し詳細を記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	いつでもかかりつけ医に報告・相談できるように連携体制が整っている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居時に希望医療機関があれば意向に添えるよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	家族、本人の希望を確認しかかりつけ医と連携し医療を受けられるよう支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院への同行が可能であればお願ひし、できなかった時は詳細をお伝えしていることで共有している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	日常生活の内容や既往歴等のサマリー提供や口頭情報提供をしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	蜜に連絡をとり、万全な体制で受け入れられるよう情報交換、相談に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	日頃から連携体制を整えており相談できる関係作りを努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日常の気づきを看護職や訪問看護師に報告し相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護職や協力医療機関にいつでも相談できる体制が整っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	状態変化があった時に適切に指示を仰ぐことができ、早期発見・治療ができている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	個人別に薬ボードを作成している。薬の目的・副作用がわかるように記載している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	複数の職員が確認を行うマニュアルができている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	毎日の申し送り、記録で状態変化の気づき早期に発見できるようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	毎日細かく状態観察、記録を行い変化があった時は家族や主治医に報告している。				

愛媛県グループホームすみれの丘

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時や必要な時期に終末期について話し合いを行い、その意向を話し合いながら方針を共有できている。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合の対応に係る指針(看取り介護指針)」があり、入居時に利用者や家族に説明して、同意を得ている。重度化などの状態に応じて、利用者や家族、主治医などの関係者を交えて話し合い、方針を共有して支援をしている。また、訪問調査日の直近の1年間で、事業所では4名の看取り介護を経験している。さらに、事業所には看取り専用の記録様式はないものの、家族や他の関係機関と連携を図りながら、丁寧に記録を残すことができている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	◎	利用者・家族だけでなく職員・医療関係者と話し合い方針を共有している。	○	◎	/	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員の思いや力量を把握し、不安のない体制で対応できるよう指導している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	事業所の対応方針について十分な説明を行い、理解を得ることができている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族や医療関係者と連携を図りながら支援していく体制を整えている。また今後の変化に備えて検討もしている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の心情、事情を受け止め精神面での支えになれるよう努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会やショートミーティングで感染症に対する研修を定期的に行っている。	/	/	/	/
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症に対する予防や対応は学んだことを活かし速やかに対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	行政や医療機関、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の発生状況の情報を得ることができている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、流行に随時対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員・利用者は手洗いやうがい・マスクの着用を徹底しており、面会者が来られても手洗いやうがい・マスクが着用できるよう準備している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族の要望や不安に思うことを聞き取り一緒に検討し利用者を支えていくようにしている。				コロナ禍以前は、事業所から地域の花火大会の開催時には、家族に呼びかけて、利用者と一緒に絶景を楽しむことができていたが、現在は感染症対策のために、家族の参加できる行事の開催を自粛している。また、コロナ禍においても、ガラス越しでの面会に対応するとともに、電話連絡時には、家族に利用者の様子を伝え、意見や要望を聞くことができている。また、写真を多く取り入れた事業所便りを発行するとともに、個別に担当職員等がユニットからのお知らせを書き、請求書の送付時に連絡事項と合わせて送付をしている。さらに、事業所の運営上の事柄は、職員の異動も含めて運営推進会議録を全ての家族に発送することで、伝えることができる。加えて、家族が意見を言いやすいように運営推進会議の事前アンケートを送付したり、定期的に電話連絡で利用者の様子を伝えたりするなど、家族との良好な関係を築いている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	コロナ禍により面会制限があり気軽には困難だったが、できる範囲で居心地よく過ごせるようにしている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	以前は、夏祭りや花火大会には利用者と一緒に食事したり花火を見るなど一緒に楽しんで頂いていたが、コロナ禍により家族の参加は控えて頂いている。		○	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月のお便りで近況報告を行っている。面会時には記録を見て頂きながら日常の様子を伝えている。		◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	面会時にはさりげなく伺うようにしている。意見箱を設置し不安内容などの収集に努めている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症についての理解を深めて頂き、適切な接し方や対応について話し合うようにしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	お便りや運営推進会議の案内書の中で行事報告をしている。アンケート用紙を同封し家族の意見や要望などを記入して頂くようにしている。職員の異動に関しては、直接説明したり文書で報告するようにしている。		×	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナ禍により家族同士の交流は自粛している。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	今後起こりうるリスクについて説明し、暮らしを大切にしたい対応策を話し合い、理解して頂いている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	気持ちの良い挨拶を心がけ、気軽に相談して頂けるような声かけや雰囲気づくりに努めている。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時には文章と合わせて説明補足を行い理解し納得して頂けるようにしている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	体調面で施設の生活が困難になった症例があった。入院先の主治医と家族と一緒に話し合いを行い納得して頂いた。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	改定がある場合はその都度、文章と口頭で説明し同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議で事業所の目的や役割を説明し理解を頂けている。	/	○	/	現在のコロナにおいて、事業所では地域住民と交流が持てる機会は激減している。事業所周辺の散歩時には、地域住民に挨拶をしている。また、地域の民生委員から電話連絡をもらい、事業所の様子を確認されることもある。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	以前は地域行事や活動への参加をすることで地域の方々との交流。(盆踊り・運動会・秋祭り・文化祭・町内清掃など)が図れていたが、コロナ禍により地域行事は中止となっている。電話や訪問などで日常の挨拶は行うようにしている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	必要時には町内放送をして頂ける関係作りができています。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	以前は夏祭りや花火大会行事などお誘いはしていたが、コロナ禍により気軽に交流することは自粛している。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらするなど、日常的なおつきあいをしている。	△	気軽に立ち寄り頂けるよう運営推進会議の時に働きかけている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	ボランティアは積極的に受け入れるようにしているが、コロナ禍により自粛している。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	以前は利用者一人ひとりの心身の力を発揮できるよう地域行事に積極的に参加していたが、コロナ禍により自粛している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	地域の商店や美容院などに協力して頂いていたが、コロナ禍により協力して頂くのが難しくなっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	コロナ禍により文書開催になっているが、活動内容等を報告し様々な意見やアドバイスを頂いている。	◎	/	○	運営推進会議は、利用者や家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター、市担当者等の参加を得て開催をしている。現在のコロナ禍において、集合形式での会議は開催していないものの、事前に参加メンバーや家族から意見を聞き、意見が会議に反映されるよう工夫している。また、出された意見や要望に回答した議事録を、参加メンバーや家族に送付することもできている。さらに、会議録やサービスの評価結果を玄関に置き、来訪者などが閲覧できるようにしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	毎回利用者の状況や活動・出来事を報告している。外部評価の内容・目標達成計画の内容と取り組みを文章と口頭で報告している。	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	文書開催ではあるが、参加者全員に感想や意見を伺うようにし、日々の取り組みやサービス向上に活かせるようにしている。	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	以前はメンバーが参加しやすい曜日や時間帯について配慮していたが、コロナ禍により文書開催となっている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	全員に文書で報告している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作成し全員が理念に基づいたものになるよう取り組んでいる。				事業所では勉強会等を開催するほか、積極的に外部研修に参加して、職員のスキルアップに努めている。また、施設長は職員の様子を観察しながら、元気がない場合には面談や相談に応じることができている。さらに、多角的に事業所を運営しているため、代表者が来訪する機会はほとんどないものの、法人の担当者が訪問するとともに、施設長等が管理者会議に参加し、必要に応じて、職員の意見や要望を伝えることもできている。さらに、法人・事業所では、職員が意欲を持ちながら働けるように、人事評価等を導入するとともに、職員の意見や要望を聞きながら、働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	目につきやすい玄関の入り口に掲示し、家族・利用者・地域の方々にも理念を伝えている。	○	△		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員全体が法人・内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。				
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員が働きながらスキルアップできるような積極的に取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職員に自己評価してもらい個々の努力や実績・勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地区のグループホーム連絡会やケアマネ合同研修会に参加し交流をしている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	スタッフとの面談する機会をつくり、体調やストレスについて問題ないか配慮している。	◎	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	内部・外部研修に参加し虐待防止について学び、日頃の事例で検討する機会を設けている。				
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎日のミーティングでケアの疑問点や意見を話し合っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待や不適切なケアの事例に基づいた勉強会やミーティングで意見交換を行っている。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	職員と面談を行い、疲労やストレスを感じていないか把握するようにしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会を設け資料を配布して全ての職員が理解できるようにしている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束について話し合いの場を設け身体適正化委員会を実施している。				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族からの要望があっても、利用者の及ぼす弊害について説明し拘束を行わないケアの具体的な内容を示し理解を頂いている。				

愛媛県グループホームすみれの丘

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	内部研修や外部研修で知識・理解を深めている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	家族からの相談があれば情報を提供する準備はしている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括センターに相談できる関係づくりを築いている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	利用者の急変時の対応はマニュアルを作成し落ち着いて対応できる体制を整えている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	救急隊より指導を受け、実践できるようにしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハット・事故報告書作成しその日のうちに話し合い、ユニット会議でも再検討し事故防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	毎日のミーティングや勉強会で話し合い、安全な環境整備・ケアの仕方に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアルを作成し職員は周知している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	相談・苦情があればマニュアルに添って早急に対応し書面に残すようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった場合は、事実確認を行い謝罪し今後の方針を伝え納得して頂けるよう努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	話しやすい雰囲気・環境作りを行い、さりげなくお聞きするようにしている。			○	日々の生活の中で、職員は利用者から意見を聞くように努めている。意見はなかなか出されないため、言動や表情などを見逃さずに観察をするように努めている。家族からは、面会時や電話連絡時を活用して、意見や要望を聞くよう努めている。また、日々の業務やミーティング等の中で、施設長や管理者は、職員の意見を聞く体制づくりをしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時など事業所から積極的に意見・要望をお聞きするようにしている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関に意見箱を設置し、投稿できるようにしている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	自ら現場に足を運び、職員の意見や要望・提案などを直接聞くようにしている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	管理者は一人ひとりから意見や提案を聞く機会をもち、利用者本意の支援をしている。			○	

愛媛県グループホームすみの丘

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組み、管理者等を中心に取りまとめている。また、サービスの評価結果は、運営推進会議の中で報告をすることで、議事録を参加メンバーや全ての家族に送付して周知を図ることができている。さらに、サービスの評価結果を玄関に置き、来訪者などが閲覧できるようにしている。コロナ禍の収束後には、取組み状況の確認のモニターの協力を、家族や会議の参加メンバーに呼びかけるなど、意見をもらい反映させながら、サービスの質の向上につながることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題や問題点が明らかになると早急に毎日のミーティングやユニット会議で話し合っている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	実現可能な目標を話し合い事業所全体で達成できるよう取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で事業所の目的や役割を説明し理解を頂いている。報告し、いつでも閲覧できるよう施設内にて掲示している。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	事業所内で取り組みの成果について確認するようにしている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	様々な災害の対応マニュアルを作成し周知に努めている。				事業所では、年2回避難訓練等を実施するほか、年1回実際の消火訓練や防災訓練を実施している。また、事業所は高台に立地しており、土砂崩れの可能性があるため、定期的に1階から2階へ垂直避難をする訓練も実施している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	マニュアルに基づき、様々な時間を想定し安全に避難できるよう訓練している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消防設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品など定期的に点検している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議の際消防署の方から訓練の仕方や避難方式等教えて頂き、訓練を行っている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地区の防災訓練があれば利用者も一緒に参加するようにしている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	内部・外部研修に参加し運営推進会議などでテーマとして取り上げ講習を行っている。				事業所は高台に立地していることもあり、地域住民等からの相談はあまり寄せられない。運営推進会議等に参画している民生委員を通して、相談等に応じることもある。また、現在のコロナ禍において、関係機関との連携は難しいものの、市行政や地域包括支援センターの会議や研修等に、可能な範囲で参加協力をしている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	運営推進会議の際、相談や支援が行えることを伝えている。		○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	夏祭りなどのイベントを開催し交流の場を広げているが参加者は少ない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	介護人材やボランティアの養成があれば受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域関係者に働きかけ、イベントや地域活動に参加している。			○	